

再任用・会計年度任用職員部ニュース

No. 361

2023. 7.12

東京都公立学校教職員組合（東京教組）

再任用・会計年度任用職員部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 2F

TEL. 03-5276-1311 FAX. 03-5276-1312

HAND BOOK 2023 をお届けします

「暫定再任用・会計年度任用職員 HAND BOOK 2023」をお届けします。東京教組再任用・会計年度任用職員部が毎年制作しているもので、高齢職員の様々な働きかたについて説明してあります。ぜひご覧になり、ご自分の仕事にお役立てください。

さて、今年度から、公務員の定年引上げと関連する諸制度が始まりました。今年度はまだ、従来の「再任用」の呼び名が「暫定再任用」に変わったくらいですが、来年4月からは、60歳を超えた職員が、下のように様々な働き方で勤務することになります。

- ・61歳で定年前の方
- ・61歳で定年前再任用短時間勤務の方
- ・62歳～65歳で暫定再任用（フルタイム・短時間勤務）の方（2019年～22年に60歳で定年退職）
- ・会計年度任用職員（非常勤教員・時間講師・特別支援教室専門員）※年齢制限なし

定年退職の年齢を過ぎてから年金支給開始の65歳まで、経済的基盤の確保は重要な問題です。多様な働き方のどれを選択するかは、それぞれの方々のライフスタイルによって大きく左右されます。どのような制度や条件の下で働いているのか、どのような権利があるのか知るために、「HAND BOOK 2023」を有効にご活用ください。

会計年度任用職員にも「勤勉手当」支給へ 改正地方自治法成立

東京教組 WEEKLY1060 号でも紹介されましたが、4月26日、会計年度任用職員のボーナスを拡充する改正地方自治法が、参院本会議で可決、成立しました。法改正は、正規職員との格差是正を目指すもので、現在、会計年度任用職員のボーナスは期末手当だけですが、2024年度から勤勉手当も支給できるようになりました。

一般的に期末手当は、「生計費が一時的に増大する時期に、生計費を補充するための生活補給金としての性格を有する手当」、勤勉手当は「勤務成績に応じて支給される能力給の性格を有する手当」という意味です。国家公務員の非正規職員（期間業務職員）には、既に期末手当と勤勉手当が支払われています（2022年度は年4.40月）。

会計年度任用職員は地方公務員ですから、今後それぞれの都道府県の条例改正が必要になり

ます。最近の秋闘では、下げられるのは期末手当で、上がる時には勤勉手当となっていましたので、多少は改善ですが、正規職員の勤勉手当に成績率が適用され、ボーナスが差別賃金化している現状から、今後の都側の進め方には注意を払わなければなりません。

対馬が、「核のゴミ」の最終処分場建設の有力な候補地の一つに！

森谷 憲光(東京南部支部)

大学院の学友4人で9年前に年1回の旅行会を立ち上げ、2014年と15年は東京、沖縄(16年)、高知(17年)、福岡(18年)、台北(19年)と順調に旅行会を開催していましたが、20～22年の3年間はコロナ禍でやむを得ず中止し、今年は満を持しての開催となりました。5月14日(日)～17日(水)の3泊4日の対馬観光でした。

私の古くからの友人である糸瀬敬一さん(元NTT職員・元大田区議)が、生まれ故郷の対馬市厳原町の実家で余生を過ごすことを決意され厳原(いずはら)に戻られたので、彼にぜひお会いしたいという強い思いもあり、糸瀬さんに対馬旅行の相談をしたところ、たくさんの観光パンフレットを送ってくださり、実現の運びとなりました。観光コース設定等でも色々とおアドバイスをいただきました。

【対馬とはどんな島?】

対馬は、九州よりも朝鮮半島の韓国に近い位置にあります。上対馬の「異国の見える丘展望台」から、天気の良い空気の澄んだ日には、約50km先の韓国の山並みを見ることが可能とのことでしたが、この時期は中国の黄砂の影響もあり遠くが霞んで見ることで見ることは出来ませんでした(滞在3日目の16日)。対馬は、南北に細長い島で、直線距離で80km以上あり、総面積は約700km²です。

対馬は、もとは海底が隆起して島となったといわれ、小高い山が連なり、海岸線近くまで山並みが続いています。道路は曲がりくねっていて高低差もあり、トンネルも多いです。トンネルが作られる前は、隣の村と行き来するのもかなり難儀だったろうと想像します。

対馬は、昔は津島とも表記されていましたが、大きな二つの島なので対州(たいしゅう)、対島という表記の時期もあったようです。対馬には対州馬(たいしゅうば、たいしゅううま)という固有の馬も保存されています。対馬と対州馬、何か関連性があるような気がします。

対馬全体をくまなく観光するには、3～4日の日程で、4人以下の小グループの場合は小型の観光タクシー、5人以上9人以下はジャンボ観光タクシーが便利です。運転手がガイドとなり、案内してくれます。レンタカーも便利です。観光タクシーの場合は、1時間の料金が設定されており、その4時間とか6時間分で事前に予約しておくことをお勧めします。島内の移動は、あとは路線バスとなりますが、短時間で観光コースを回るのには不便です。

厳原町には対馬博物館と対馬朝鮮通信使歴史館などがあり、必ず厳原町を観光コースに組み込むことをお勧めします。

対島観光でとても印象的だったのは、深緑の美しい山並みと波穏やかな数多くの入り江でし

た。平坦な土地が少なく、比較的漁業が盛んで、タイやマグロの養殖、真珠の養殖などが盛んと観光タクシーのガイド(運転手)の説明でした。真珠の養殖では、真珠で有名なミキモトが買い付け、「ミキモト真珠」で全世界に出回っています。林業も盛んらしいのですが、樹木を伐採している様子は見受けられませんでした。

対馬も強い風が吹くので、厳原町椎根では、対馬で産出される岩板で**石屋根倉庫**を各戸で作り、収穫した農作物などを保管していました。現存している石屋根倉庫は、長崎県の文化財として保存されています。

また、厳原町の民家の周囲には、岩板を使った石垣があります。石垣を作る技術のレベルの高さに感心しました。



石屋根倉庫

【友好と敵対の歴史を繰り返した対馬】

対馬は、朝鮮半島に近い位置にあることから、大陸文化伝来の経由地という重要な役割を担っていました。江戸時代には、400~500人からなる朝鮮通信使の一行が最初に対馬に上陸し、その後江戸までを往来しました。朝鮮通信使の来日は、実に12回に及びます。

対馬藩に仕えた江戸中期の**雨森芳洲**(あめのもりほうしゅう、1668~1755)は、外交官として当時の朝鮮と深く関わり、「善隣友好」の大切さを説きます。

対馬はまた、歴史的に国土防衛の重要な要衝でもありましたし、それは今も何ら変わってはいません。明治、大正から昭和初期にかけて対馬の各地に砲台なども建造されましたが、ほとんど実戦で使われることはなく、今は砲台跡が各地に残っています。今、対馬には自衛隊が駐屯し、国の守りを固めています。

対馬には、**日露戦争(1904~05年)**に関する記念碑も各地にあります。毎年5月27日には、対馬沖に眠る日露両国の戦没者を悼む慰霊祭も営まれています。

1905年5月27、28日、日露戦争の勝敗を決定付けたといわれる**日本海海戦**は、対馬沖で繰り広げられ、同海戦で旧日本海軍の連合艦隊は、当時、世界最強とされた旧ロシアのバルチック艦隊を撃破します。

上対馬町西泊地区には、戦闘後に沈没したバルチック艦隊からボートで脱出したロシア兵143名がたどり着き、地元の人たちが傷の手当てや食料、宿の提供などをしたそうです。その博愛の精神を後世に語り継ぐために、上対馬町西泊



対馬朝鮮通信使歴史館にて



豊砲台跡内部

地区の殿崎公園内には日露平和友好の碑も 2005 年に建立されています。この碑の 100m ほど離れたところに日本海海戦記念碑が建立されており、この一帯を「日ロ友好の丘」とも呼ばれています。

その道端にウクライナと日本の国旗が 10 本以上交互に並んで立っていて、風ではためいていたのが強く印象に残っています。それは、ロシアのウクライナ侵攻に反対し、速やかな停戦とウクライナの領土からのロシア軍の完全撤退を願う対馬市民の切なる願いでもあります。昨年と今年の慰霊祭は、複雑な思いで開催したらしいです。

【過疎化の島対馬に「核のゴミ」の最終処分場誘致の動きが】

対馬は、最盛期には 7 万人を超す人口を有していましたが、年々減少を続けており、今後もさらに人口が減少する見込みとされています。最新のデータでは 2023 年 6 月 30 日現在の人口は、27,811 人(男 13,757 人、女 14,054 人)で、世帯数は 14,512 世帯(1 世帯当たり 1.92 人)となっています。

高校を卒業するとほとんどの若者が島外に出てしまうのは、対馬には受け皿となる産業（職場）があまりないという深刻な状況にあるからです。毎年 30 万人以上の韓国からの観光客が訪れ賑わっていましたが、コロナ禍で、韓国からの観光客が激減してしまいコロナ禍前までに回復していないことも、深刻さに輪をかけています。4 日間かけて対馬観光を楽しみ、色々と学ぶことが多かったのですが、残念ながら本土の各地の観光地のような賑わいはあまり感じられませんでした。対馬は、現在、過疎化対策地域に指定されており、様々な取り組みが行われていますが、人口減少には歯止めがかかっていません。



糸瀬敬一さん

今、対馬では、商工会や建設業界が、原発から出る高レベル核廃棄物の最終処分場建設受け入れに前向きです。対馬市と市議会に最初に文献調査を受け入れるよう請願書を出しています。

最終処分場が建設されれば、核関連施設の立地自治体に半永久的に多額の地域振興給付金が交付され、自治体財政は一定程度潤いますが、対馬の有力な産業である漁業や観光産業等が大打撃を受けることになりかねません。最終処分場が建設されれば更に人口減少に拍車がかかる懸念もありますし、東アジア諸国との間に更なる緊張関係を生む

ことにもなります。

糸瀬敬一さんは、「歴史的にも重要で、東アジア諸国との平和友好の懸け橋としての対馬を、核のゴミの島にすることは、何としても避けなければならない」と、多くの対馬市民の反対運動の中心となって頑張っておられます。対馬の良さを日本中に広め、たくさんの日本人や、様々な国の外国人もたくさん訪れてくれるような魅力のある島、対馬にしたいと活動しておられます。ぜひ皆さんにも糸瀬さんたちの活動を支援し、対馬観光を楽しんでもらいたいと思っています。